

「ミックスモダン」ベルリン映画祭で反響

更生の現実 踏み入れ映す

非行に走った少年の立ち直りの難しさや、支える側の葛藤を描いた作品が2月の第75回ベルリン国際映画祭で上映された。メガホンを取ったのは、非行少年たちの社会復帰を手助けする企業の取り組みに共鳴し、更生保護の世界に足を踏み入れた現役保護司だ。



藤原穂三監督
—本人提供

映画の舞台は、大阪の繁華街・ミナミにあるお好み焼き店。事件を起こした18歳の勇人は、少年院を訪れた店主の博之と出会う。面接を「やり直したい」と直訴し、社員寮に住み込んで接客や配達を覚える生活を始めた。

順調なスタートを切ったように見えた勇人。しかし、自立更生はそう簡単ではなかった。

初めての給料で父へのプレゼントを買って届けに行くが、父は断りなく引越していった。幼い頃に母に見捨てられ、父とも音信不通となった勇人は、昔の仲間と連絡を取るようになり、次第に店に孤立して暴走していく。

映画のモデルになったのは、2013年から関西で始まった「職親プロジェクト」だ。

企業が「職の親」となって、刑務所からの出所者たちに働く場と住まいを提供し、立ち直りを支える。お好み焼きチェーン「千房」(本社・大阪市)が中心となってスタートし、活動は全国に広がって、25年3月現在、

679社が参加。これまでに941人を雇ってきた。

映画で監督・脚本を手掛けた藤原穂三さん(68)は大阪府和泉市。職親プロジェクトを知り、千房の中井政嗣会長や中心メンバーを訪ね、実際に働く出所者らにインタビューを重ねた。見えてきたのは、一筋縄ではいかない更生の現実だった。親身になって雇用しても逃げられたり、売上げを持ち逃げされたり。ただ、何度裏切られても関わり続けようとする企業の経営者や、「コロッと転落してしまうのは簡単なんです」とこぼしながらも懸命にもがく出所者らの姿を目の当たりにして、更生保護の世界を外から見つめるだけでなく、より深く知りたいと思うようになった。

藤原さんは地元の保護司会の門をたたき、21年から保護司に。

保護司になった監督 少年ら見つめ

これまで少年ら数人の保護観察を担当したといい「立ち直らせる、と構えるのではなく、寄り添う大切さを学んでいる」。映画の脚本は、こうした経験を下地に書き上げた。タイトルは「ミックスモダン」。

居場所を探す出所者、そこに手を差し伸べようとする雇い主や会社の従業員、更生に伴走する保護司——。一人の人間をみることで支える様子を、さまざまな素材を混ぜ込んで作るお好み焼きに重ねた。



映画「ミックスモダン」のワンシーン。お好み焼きチェーン「千房」の実際の店舗で撮影され、店主役は藤原穂三監督(右)が自ら演じた—TOSHIZO PRODUCE提供

舌がんと患って俳優のキャリアを一度は断念した30代後半。つ、ベルリン国際映画祭では、特色ある作品を集めた「パノラマ部門」に選出された。

現地では「言葉で説明するのはなく、登場人物たちが懸命に目の前の問題と格闘している姿がとてモウ感動的だ」と評価され、5回の上映のチケットが完売したという。英語版のタイトルは、憧れや切望を意味する「The Loners」。何があっても小さな可能性を捨てず、何とかしようともがく思いを込めた。藤原さん自身の生き様でもある。

舌がんと患って俳優のキャリアを一度は断念した30代後半。絶望したもの、諦めずに演出する側に回り、数々の舞台や映画をプロデュース。懸命なりハビリの結果、再び役者として演じられるようになり、今回も店主の博之役で出演を果たした。

藤原さんは「どん底に落ちて支えてくれる人がいた。更生保護の世界も同じ。一人でも二人でも誰かが関わって支えていたら」と話す。映画の一般公開は25年秋を予定している。問い合わせは電子メール(mixmodern.movie@gmail.com)。

出所者支える企業 雇用は登録の3%

「職親プロジェクト」のように、刑務所や少年院から出た人々を雇用して、社会復帰を支える企業や事業者は「協力雇用主」と呼ばれる。2023年には全国の約2万5000社が登録している。犯罪白書によると、刑法犯の検挙人数は、23年に増加に転じたものの減少傾向にある一方で、再犯率(検挙された刑法犯のうち再犯者が占める割合)は40%台後半で高止まりが続いている。刑務所を出てから再び収容された人のうち7割超が無職だった。出所者らにとって安定的な就労は更生に向けた大きな支えとなる。

し、ハローワークに出所者らを対象にした専用の求人情報を出す。日本財団の支援を受ける職親プロジェクトの場合、これに加えて刑務所での会社説明会を積極的に実施している。

協力雇用主が実際に受刑者を雇用すると、国から奨励金を受け取ることができ、損害を被れば見舞金も支給されるが、実際に雇用しているのは全体の3%強にとどまる約900社。登録企業を職種別で見ると建設業が半数を占めており、出所者のニーズとのずれ違ひが起きていて、業種の広がりや希望者との適切なマッチングが求められている。

協力雇用主は保護観察所で登録

・リーンハート氏(48)。マールを流しより根元寄りです。規定を見直す可能性もあいなキャリアチェンジにつ